

コープこうべ 震災2周年のつどい

○神戸から寄り添おう

3月11日、各地で東日本大震災をテーマにした会合が開かれる中、コープこうべ第3地区（神戸市東灘区～須磨区）でも震災を考えるつどいが開催されました。主催は、震災後の支援活動を長く続けていこうと活動する「震災支援を考える会」と、「平和企画委員会」の両会です。この日は60人も参加があり、座席が足りなくなるほどでした。

岩本 衛組織統括の司会で進行され、藤本正子理事のあいさつに続いて、第3地区コープ活動サポートセンター住吉の林律子チーフによるビデオ上映と2年間の震災復興支援活動報告が行なわれました。発災直後の状況やみやぎの生協の奮闘、そして、被災地での物資運搬や店舗復旧作業などコープこうべが取り組んだ支援活動についてあらためて報告されました。

みやぎ生協からのビデオメッセージでは、「いち早くかけつけてくださったコープこうべの皆さんに感謝します」「（緊急支援物資として届けられたコープこうべのロングセラー）神戸ハイカラメロンパン、おいしかったです」などの声が届けられ、拍手も起こっていました。

林チーフは「緊急支援物資からメッセージカードづくり、ふれあいサロンの開催などコープこうべはずっと支援を続けています。メロンパンは象徴的なコープ商品です」と説明していました。

続いて有志の組合員さんたちによるバスタオルを使った簡単な防災ずきん作りなどくらしの中の防災対策の発表が行なわれました。非常食には特別な物を用意せず、普段食べている日持ちのする物やスポーツドリンクを、とのアドバイスなどにも参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。



簡単な防災ずきんの作り方講座の様子。

○これからも長いおつきあいを

東日本大震災発災の14時46分には、参加者全員で黙とうを捧げました。

黙とうのあと、野間本部長は、3月11日付けの日本経済新聞のコラム・春秋を紹介、「人が一心に祈るとき、本当に必要なものは、わずかな場所と時間だけらしい。祈りの先には必ず相手がいる」と読み上げて皆さんの共感を呼んでいました。

この日に出席された方々は阪神・淡路大震災で被害に遭われた方が多く、「東北は津波と福島原発の被害が甚大なのでとても心配です」「自分の経験上、『がんばれ』とは言えません。でも、頑張っしてほしいです。応援しています」「自分の経験から言うと、そっ



14:46 には、東北に向かって参加者全員で黙とうを捧げた。

としておいてほしいと思われる被災者の方もいらっしゃるかもしれません。それを思っ涙が出てきました」「これ以上頑張らなくていいと思うけど、やっぱり『頑張って』と言いたくなります」「何もできなくて、心苦しい」などの感想が聞かれました。

また、「発災直後から現在まで、コープこうべが被災地とつながっているのをあらためて感じました。組合員でよかったと思います」との声も目立ちました。

「考える会」では、このつどいの他にも3月1日にコープ兵庫で「神戸から宮城 長～いおつきあい」と題する学習会を開催、44人が参加しました。

学習会では、「被災地NGO協働センター」職員・増島智子さんの講演と「長～い巻き寿司」づくりが行なわれました。昨年9月に「考える会」のメンバーが宮城県内の仮設住宅集会所で住民の皆さんと手作りした長い巻き寿司を再び作ることにしたそうです。

2組に分かれて掛け声とともに少しずつ巻いていき、約4メートルの長～い巻きずしが、1カ所も破れることなくできあがり、歓声も上がっていました。

参加された組合員は、「もともと心を合わせられる組合員同士だったので、上手にできました。この巻き寿司づくりのように力を合わせてみやぎの皆さんと長くつながっていきたいです」と話していました。

また、10日には神戸市北部・北播磨・丹波地域などのコープ委員会やコープサークル有志が手作り品などを出品した「3.11東北支援さずなバザー」も開催され、たくさんの方でにぎわいました。

○「大丈夫！ 忘れてないよ！」

「震災2周年のつどい」の終了後には、「考える会」の皆さんによる12年度最後のミーティングが行なわれました。

メンバーの皆さんからは、次のような意見が出ていました。

「発災直後よりは国民の関心は薄れた感じがあるので心配」

「被災地には『大丈夫！ 忘れてないよ！』と伝え続けたい」

「復興は進んでいないように見えるが、私たちにできるのは『忘れないこと』」「自己満足かもしれないが、会に参加して、できることを続けられるのはうれしい。場を作ってくれたコープこうべに感謝している」

「テレビや雑誌の東日本大震災の特集を見て、自分のことと合わせて涙が出た。まだ周囲には阪神・淡路大震災の被害を忘れられない人も多く、こういう会には誘いにくい現実もある」

「最後の一人が納得できるまで、支援を続けたい。忘れるなんてできない」

「この経験を伝えたい人、忘れたい人、話したくない人、話したくても話せない人、いろんな方がいる。自分ができる範囲で関わっていききたい」

「『思い』だけではだめ。コープこうべとして生協の役割を果たさなくては」

「大事なのはこうべの活動を単なる美談にしないこと。反省も記録に残していきたい」

たくさんの方が被災地に思いをはせていることが感じられるミーティングでした。



「考える会」のミーティング風景。